

笑顔

熊本市高齢者支援センター ささえりあ帯山
 熊本市中央区保田窪1丁目 1-33 第2大田ビル1階
 電話:096-241-0230 FAX:096-241-0232
 E-mail:sasaeriaobiya@kyouninkai.jp
 令和3年3月 http://www.kyouninkai.jp/obiya/



第45号

令和3年3月

ささえりあ帯山 職員紹介

ささえりあ帯山の職員 9 名です。4 月よりセンター長的那須が退職する事になりましたが、これからも帯山中学校校区の地域の支えになれる様、思い出に残る私達で居られるよう頑張っています。



那須 久史
 センター長
 休日は娘が飼っている二匹のワンちゃん
 と散歩するのが楽しみです！



芹川 真寿美
 生活支援コーディネーター
 子ども達とお喋りが
 楽しいです。思い
 もよらない事を言う
 娘にはいつも笑わせ
 られています。



小島 康江
 社会福祉士
 休みの日は愛犬と
 猟に出ています。狩
 場情報誌賛募中で
 す！



清住 麻希
 介護支援専門員
 ささえりあに来て1
 年が経ちました。美
 味い物には目があ
 りません。



高野 亮太
 社会福祉士
 昨年10月にフォレ
 スト熊本から異動で
 こちらにきました。
 頑張ります！！



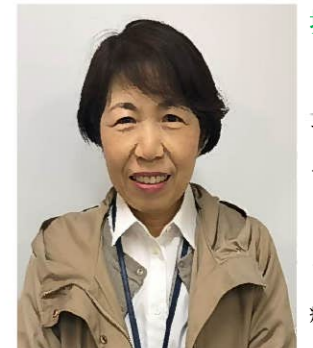
中熊 彌和
 看護師
 食べる事が好き！
 料理のレパートリー
 を増やすべく新レン
 ピに挑戦中です！



米田 拓
 社会福祉士
 趣味はラーメン食べ
 歩きです。美味しい
 ラーメン屋さんがあ
 ったら教えてください！



切通 好実
 看護師
 昨年6月に育休復帰
 しました。休みの日
 はもつばら公園にい
 ます。コンビニの煮
 卵が大好きです！！



坂本 康子
 看護師
 玄関前のお花を育て
 るのが休憩時間の楽
 しみです。綺麗に咲
 く花々を見ると心が
 癒されます。

感謝と共に“スターティング・オーバー（もう一度はじめる）”

昭和61年10月、当時25歳の私はアメリカ合衆国への一人旅を終え、財団法人杏仁会（現、一般財団法人）に入職しました。当初は江南病院のリハビリテーション科の理学療法士としてはじまり、平成10年1月介護老人保健施設フォレスト熊本の開設とほぼ同時に、併設となる熊本市在宅介護支援センターフォレスト熊本の開設に従事しました。地域（当時は大江、碩台）のよろず相談窓口として活動を開始し、平成18年4月に介護保険法の改正により、熊本市中央4地域包括支援センターやすらぎの森が誕生し、担当校区も託麻原、帯山西に変更され、専門職の配置も3人体制となりました。さらに平成24年には地域包括ケアというコンセプトで高齢者を支える環境づくりへの援助に重点が置かれ、同年4月にここ保田窪に事業所を構え、担当校区も帯山を加えて現在のささえりあ帯山となりました。

今、皆様方と一緒に活動させて頂いたことを振り返ってみますと、平成24年3月に開催した熊本市で初の「認知症徘徊者捜索・声かけ模擬訓練」を皮切りに、様々な活動実践が行われました。例えば地域や当事者の視点からの「在宅医療・介護連携」や住民の皆さんが主体となる「生活支援・介護予防」、自助と自立（自律）を多面的に考える「地域ケア会議」、加えて地域共生社会の構築を見据え司法も含めた活動等々。ここ最近では、集い（通い）の場であるサロンの社会的機能を皆さんと一緒に創造することを軸に活動して参りました。時には皆様とお酒を共にする親睦会「飲み今夜ん隊」・・・充実した懐かしい思い出ばかりです。

さて、新型コロナウイルスの発生に伴い地域活動が停滞するなか、新たな年度では新たな手法獲得とこれまでの事業（取り組み）の再起動が必要になることでしょう。4月からは熊本学園大学の教員（特任）に着任いたします。23年間の感謝と共にわたくしも“スターティング・オーバー”です！ 有難うございました。

熊本市高齢者支援センターささえりあ帯山 センター長 那須 久史

編集後記
 新型コロナウイルス感染
 症が発症して、かなりの月日
 がたちました。連日の報道か
 ら気分も落ち込んでしまっ
 た。日々を過ごしてしましたね。
 しかし、最近ワクチンとい
 う希望がみえてきました。日
 本でも医療従事者から接種が
 開始され、ほんの少しだけ安
 心できそうな気がありま
 す。その明るいニュースと共
 に、少しずつ春のおとずれも
 感じます。春は、別れと出会
 いの季節でもあります。ささ
 えりあ帯山でも新しい旅たち
 があります。ご承知の通り、
 センター長はささえりあ帯山
 を卒業され、新たな道に進ま
 れます。これからはきつと、
 活躍してくれることと思いま
 す。私たちは、これまでのご
 指導の成果を発揮し、新しさ
 えりあ帯山として地域の皆様
 と一緒に新たな気持ちで歩ん
 でいければと思います。これ
 までとこれから、変化した事
 もたくさんありますが、それ
 を受け入れ、少しずつ体を動
 かし、皆で1歩ずつ動かしだ
 して行きたいと思えます。



帯山2町内グランドゴルフ



毎月第2・第4月曜日に帯山東公園で開催されている**帯山2町内グランドゴルフ**にお邪魔させていただきました。当日は澄み渡った青空の下、町内の皆さんのほじける笑顔がマスクをつけていても伝わる位の楽しい時間でした。民児協の米満会長にお話を伺うと、去年の10月に大会を開催しそこから11月にグランドゴルフを立ち上げ、現在に至るとの事でした。自治会主催の為、自治会に入っている方であればどなたでも年齢問わず参加可能！との事です。コロナ禍の中、地域活動や参加できる場所が限られる中で、続けられる活動を継続されているその姿と皆さんの笑顔と声に沢山のパワーをもらって帰ってきました。



“帯山西4町内自治会”会議 ～オンライン開催～



帯山西校区4町内自治会では、コロナ禍の影響で自治会会議が開催できないことが続いたため、これを機にオンライン会議に挑戦されました。町内役員10人で、オンラインアプリ、ZOOMを活用しての会議です。初めて使う役員の方もおられたそうですが、自治会長を中心にお互い学びあい、コロナ禍でも月に1回の会議が開催されています。自治会長は、オンライン会議を導入した理由としては、“①感染予防（3密を避ける）②総会や大きなイベントの実施時期を除いて、審議を要する重要な議案は少ない。③役員の新しいことに対するチャレンジ意欲を掻き立て、役員会を活性化させたい。”でした。この、先駆的に取り組まれたオンライン会議は、新しい形として自治会活動の中で今後主流となってくるのではないのでしょうか。



市政だよりも掲載されました！！



コロナ禍の中での地域活動の実情把握



令和2年7月2日（木）に「地域ケア共同推進会議」が開催されました。参加者は各校区の民児協、社協、中央区保健子ども課、熊本市社会福祉協議会（中央区事務所）、中央区まちづくりセンターの皆さんです。会議では「**コロナ禍における地域の実情の共有とその対応策について**」を検討しました。

実情として、託麻原校区では、サロン参加者に対して、脳トレや体操等のプリントの配布、感染対策をした上でサロンを再開したというお話を、帯山校区では、高齢者に手紙を出したり、集いの場を2部制にしたりと工夫しながらの活動の継続を、帯山西校区では、場所を変更して会議を開催したり、オンラインで自治会の役員会を開催するという新たな取り組みを聞きました。

最後に今後の対応策として、「高齢者も新しいこと（オンライン等）にチャレンジする意欲を持ち、新しい形のサロンを検討していくことも必要ではないだろうか。また、第2波、3波を恐れず、自分たちの可能性を実現していくための段階を考慮しておくことも必要」ということを確認しました。また、他の機関からは「青空サロン」「訪問型サロン（サロンに参加されていない方に訪問して玄関口でお話）」など、全国の集いの場の対応についての紹介がありました。コロナに負けず、できる範囲で出来る事を実現していくことが大切であると感じました。

「在宅医療・介護連携」勉強会

「コロナ禍における在宅医療・介護連携」

自宅から病院へ、病院から自宅へ……。コロナ禍になって早1年、今まで自由に病院に出向き面会が出来ていた頃が本当に懐かしく思います。感染防止の為の対策は「会って話す事」を私達から引き離していきました。コロナ禍でも自分らしく生活していく為には何が出来るだろう。病院側と在宅支援側の双方間の連携を見つめ直す場として、今年度ウェブを用いた勉強会を開催してきました。参加者は居宅介護支援事業所、在宅診療の看護師、広域リハ、病院の連携室の皆さんに参加して頂きました。コロナ禍での課題や連携の方法を模索する機会を通して、新しい連携の在り方（ウェブや情報共有シートの活用等）を共有する事が出来ました。ウェブを活用して行く事は新しい挑戦の一つだと思いますが、会えないからこそ密な連携が大切になるという事を改めて感じました。



コロナ禍前の13町内サロンの風景



託麻原13町内サロン

形を変えてサロンの継続を・・・

令和2年12月12日（土）、託麻原13町内サロンに行ってきました。コロナ禍までは自営会にて100歳いきいき体操をしていましたが、室内での開催が難しくなり、代替案として屋外の公園へと場所を変えて開催されていました。当日は、20名ほど参加があり、皆さんでラジオ体操をされ、希望者にはお弁当の配布も行われていました。屋外用の椅子も購入し、高齢者の方も安心して参加できる体制が整えられていました。晴天のもと、笑顔で会話も弾んでおりました。

コロナ禍後の13町内サロンの風景



kids supporter

令和2年10月23日（金）託麻原小学校4年生を対象に**認知症サポーター養成講座**をWEBにて開催しました。

今回はコロナ禍という「3密防止」の中で、オンラインでの開催となりました。講師のフォレスト熊本の藪亀さんと託麻原小学校の3教室、司会進行をする教室の計5会場をウェブで繋ぎ、各教室にリアルタイムの映像を流して進めていきました。オンライン上で質問を投げかけると、子供たちの元気な声画面にあふれ和気あいあいとした時間の中、「認知症を正しく知る」事について一緒に考えていきました。

コロナ禍で密になれない中でも、ウェブという手段を用いる事で、「会えなくても伝える事が出来る、お互いに分かり合える」という事をこちら側が教わった様な気がします。

